

編集後記

日々、担当した患者さん・患児のことや覚える手技、術式、日常業務を考えながら頭を悩ましていた時代から、学会演題や抄録作製、発表準備のことで頭が一杯だった時代、自分で責任を持つ入院患者さんや外来担当患者さんへの対応で胃が痛くなるような時代、中間管理職として医局内の雑用に悪戦苦闘していた時代、新たな領域へ展開を進めるために後先も考えず対外的にも積極的であった時代、自施設の成績や対外的評価の向上に夢中であった時代、他施設との交流や海外施設との交流も視野に入れた活動が増えた時代、世代交代が現実の問題として感じられるようになり、若手・次世代の育成が重要な問題となった時代、これらは私自身の経験であると同時にこの世界に踏み込んだ先輩方、同僚だけでなくこれからの時代を切り開いていく若い方々の経験でもあると思う。基礎研究や実験、論文執筆での苦しい日々も多くの方々が経験されてきたことと思う。さらには学会の運営や将来計画の担当や広報活動、各種学術雑誌の編集、査読なども自分のことと同様仲間（特に若手）のためにも重要な役割りである。昨今の新生児期や乳児期早期からの修復の増加や段階的修復の増加、重症疾患の増加、さらには成人先天性心疾患の重要性や移行医療の重要性の認識は小児期からの医療者と患者・家族や社会との関わり、特に院内だけでなく院外、一般生活面においてのつながりの重要度の増加から我々の社会的活動への参画の必要性も増加している。病院内部での仕事と外部での仕事のバランスも重要で、しばしば頭を悩ませる。全国、海外までも飛び回りながら、多くのことを驚くような手際で対応されている方々を見ることも多く、その能力と同時に、努力、姿勢に驚き、深い尊敬、敬意を感じる。振り返って自分はどうか？ 自分の本分を努める（務める？）ことが精いっぱい、周囲の方々のお世話になってばかりいないか？ バランスはとれているか？ 自分が貢献できることは何か？ それらのための時間的余裕はどうか？ これから勤務できる時間はあるか？ など身動きできなくなっている自分を感じることも少なからず経験する。もう一度足元を振り返り、将来を見通し、自分の職務を務める努力を続けたい。ITへの順応・精通もその一部かもしれない。周囲の方々とも協力しながら少しでもよりよいものを目指したいと考えている。

（河田政明）